

大 学 史 研 究 通 信

第 64 号、2010 年 10 月 18 日（月）

大学史研究会

第 64 号の内容:会員ニュース・第 33 回大学史研究セミナー開催に当たって・第 33 回大学史研究セミナーのご案内・2011 年度第 34 回大学史研究セミナーのご案内・第 34 回大学史研究セミナーでのシンポジウムのテーマ募集・大川一毅会員「全国校章大学めぐり」の紹介・通信 63 号の記事訂正のお知らせ・会員新刊ニュース・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

異動のあった会員

北村 友人 会員（所属変更）
新所属・上智大学総合人間科学部教育学科

山崎 慎一 会員（所属変更）
新所属・桜美林大学高等教育研究所

第 33 回大学史研究セミナー開催に当たって

大学コンソーシアム京都／佛教大学
京都 FD 開発推進センター 深野政之

紅葉の時期に京都にみなさまをお迎えできることを喜んでおります。今年のセミナー会場は京都駅前 3 分の交通至便なキャンパスプラザ京都です。京都府内 50 大学が加盟する大学コンソーシアム京都の本拠地であり、2000 年に京都市により設置されて以来、単位互換授業や地域連携講座、学生交流の施設として利用されています。

大学コンソーシアム京都は 1998 年に設立（前身の大学センターは 1994 年）され、今年 7 月には公益財団法人に認定されました。単位互換授業は 500 科目を数え、年間 7,000 名の学生が他大学の授業を履修しています。今年度 16 回目を迎える FD フォーラムは全国から毎年 1,000 名以上の大学教職員が参加し、秋の京都学生祭典には 20 万人の学生・市民を集めています。

歴史ある京都の地で、新しい大学の歴史をつくりだしているキャンパスプラザ京都で、みなさまにお会いできることを楽しみにいたしております。

第 33 回大学史研究セミナーのご案内

第 33 回大学史研究セミナーは 11 月 20 日（土）・21 日（日）の両日にわたり開催します。詳細については、本通信に同封しているプログラムをご参照下さい。

事前に出欠の確認を行っています。同封のはがきに御氏名と出席状況をご記入の上、**11 月 5 日（金曜日）**までに必ずご投函下さい。

また、11 月下旬は京都の行楽シーズンと重なり、個人でのホテル確保が困難となっています。深野会員のご尽力により、京都市、大阪府茨木市にセミナー参加者用にホテルを 20 室ほど確保致しました。宿泊をご希望の方はプログラムの最終ページをご覧の上、深野会員までお申し込み下さい。

<第 33 回大学史研究セミナー日程>

11 月 20 日（土） キャンパスプラザ京都 2 階第 1 会議室

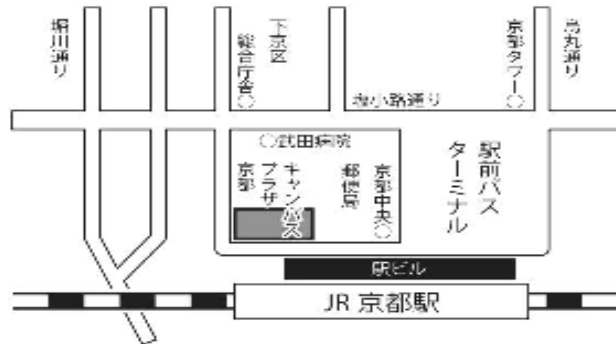
12:30～	受付
13:00～17:00	シンポジウム「教養教育の比較史的考察」
17:15～18:00	総会
18:30～	懇親会（京都駅近辺）

11 月 21 日（日） キャンパスプラザ京都 5 階第 2 共同研究室

8:30～	受付
9:00～11:00	自由研究発表 1
11:10～13:10	自由研究発表 2

<会場>

キャンパスプラザ京都 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る



<参加費> 当日会場でお支払い下さい

会員・非会員（有職者） 2,000 円

大学院生・非会員（非有職者） 1,000 円

懇親会費：5,000 円

（セミナー担当 福留東土）

2011 年度第 34 回大学史研究セミナーのご案内

2011 年の第 34 回セミナーは岩手大学に会場校をお願いすることになりました。10 月から 11 月にかけて開催予定です。会員の皆様、ぜひご参加下さい。

盛岡におでっくなんせ！

岩手大学 大川一毅

来年（2011 年）の研究セミナー開催にあたり、岩手大学を会場としてお引き受けすることになりました。北緯 40 度に近い盛岡。セミナー始まって以来「最北」の開催地です。とはいえ、東北新幹線に乗れば東京駅から 2 時間半、大宮ならば 2 時間で盛岡到着。来年 3 月の「はやぶさ」号デビューで、さらに時間短縮となりましょう。岩手大学も盛岡駅から約 2 km。タクシーで 10 分以内、歩いても 25 分です。首都圏ならば日帰りも可能です。

盛岡は、かつて南部藩 20 万石の城下町。不来方（こずかた）の古名でも知られています。岩手大学は、日本最初の官立高等農林学校として設置された盛岡高等農林学校をはじめ、盛岡高等工業学校、岩手師範学校、等を前身校とします。明治時代、北東北では毎年のように冷害と凶作に苦しんでいました。この厳しい現実を豊かな実りで克服するという願いを託し、官民が力を合わせて設置したのが盛岡高等農林学校でした。ですから今も岩手大学では「岩手の大地と人とともに」をモットーに掲げています。

岩手大学のキャンパスは、高等農林学校の敷地がそのまま使われ、当時の本館（重要文化財）や正門、そして守衛所（これも重要文化財）が大切に保存されています。植物園や農場もある大学構内は、ゆったりと清々しく、市民の皆さんにも「キャンパスまるごとミュージアム」として開放しています。キャンパスから仰ぐ岩手山の姿は実に雄大です。おおらかにどっしりと盛岡の街を見守っています。

冬が厳しい盛岡の気候を考えて、セミナーの開催は 10 月か 11 月の紅葉の美しい時期にお願いするつもりです。この季節、街もキャンパスも錦色に染まります。市街地を流れる中津川に鮭が遡上するのもこの頃です。白鳥も編隊を組んで飛来してきます。

せっかく盛岡にいらしたならば、歴史探訪もいかがでしょうか。大学からすぐ近くの町名は「前九年」「安倍館町」。盛岡ゆかりの新渡戸稲造、原敬、石川啄木、金田一京助、宮澤賢治、米内光政といった先人達の旧跡もあります。時代小説のお好きな方は、浅田次郎「壬生義士伝」を片手に街を散策するのも一興です（盛岡高等農林学校も出てきます）。鉄道ファンの方は、人気ローカル線が盛岡駅を起点としていることはご存じですよね。グルメさんは、冷麺、わんこそば、じゃじゃ麺など「盛岡三大麺」をお試しください。

盛岡高等農林学校で学んだ宮澤賢治は、「岩手（イハテ）」をそのままイメージにした「イーハトーブ」という理想郷を彼の作品に描きました。豊かな自然と穏やかな人情、優しい響きの盛岡弁。当地で開催される大学史研究セミナーが充実したものとなり、会員諸氏の交流もさらに進みますようお手伝いさせていただきます。

皆様おそろいで、南部盛岡におでっくなんせ。岩大（がんだい）におこしなんせ。



岩手大学農学部附属農業教育資料館
(重要文化財：旧制盛岡高等農林学校本館)

第 34 回大学史研究セミナーでのシンポジウムのテーマ募集

事務局では、第 34 回セミナーでのシンポジウムのテーマを募集しています。ご提案のある方はセミナー担当までご連絡下さい。来月の京都セミナーの場でのご提案もお待ちしております。

(セミナー担当 福留東土)

大川一毅会員「全国校章大学めぐり」の紹介

大川一毅会員（岩手大学評価室）が広島大学高等教育研究開発センターのウェブサイトに連載されている「全国校章大学めぐり」をご紹介します。

この連載では、毎回テーマごとに、特徴ある大学の校章を取り上げて、各校章の成り立ちと由来、変遷について詳しく解説されています。日頃、目にする機会があってもあまり意識することのない校章に、実はこんな隠れた意味があったのかと新鮮な発見をすることができます。校章モチーフに関する幅広い逸話や校章にちなんだ各大学の歴史の解説など、大川会員の博学さに感嘆させられつつ、校章を切り口とした日本の大学史を楽しむことができます。校章に象徴される大学の理念を知れば、各大学の設立に込められた意図をより鮮明に理解することができるでしょう。これを読んで大学を訪問すれば、キャンパスを歩くのがいっそう楽しくなりそうです。

ところで、本文の中でも触れられている通り、最近多くの大学でロゴやコミュニケーションマークが新たに登場し、伝統的に用いられてきた校章の影が薄くなりつつあります。本文で紹介されている大学でも、そのホームページでは大抵、校章ではなく斬新なロゴが大学名の横に配されています。新しいロゴやマークの特徴は、簡略なイメージ、デザイン性の重視、アルファベットの使用といったところにあるようです。

私の所属する広島大学には 1956 年に制定された学章があります。大学のホームページでは、「エジプト神話に出てくる霊鳥フェニックスが、500 年生きるとその巢に火をつけ、自分の身を焼き灰の中から新たな生命をもって蘇るといわれる不死鳥であることになぞらえ、原子爆弾で廃虚となった広島市に新たに生まれた本学を象徴しました」と説明されています。私はこの学章が好きなのですが、しかし今では、大学の頭文字をデザイン化したコミュニケーションマークばかりが使われています。このマークが採用されたのは学内での慎重な検討の結果であり、いろいろな意味が込められているようです。また、学章は今後も使用することなののですが、広大マークはいまひとつ評判がよくないようで…。重々しさを持った校章の美しさを改めて感じてしまいます。

「全国校章大学めぐり」は現在第 8 話まで連載されています。「センタークローズアップ情報」のバックナンバーで全話ご覧いただけます。ぜひお楽しみください。

<http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/>

- 第 1 話 「柏葉は尚武と繁栄のシンボル」
- 第 2 話 「銀杏と大学はベストマッチ」
- 第 3 話 「かざす桜は学びのしるべ」
- 第 4 話 「桐と鳳凰」
- 第 5 話 「殿様の御家紋」
- 第 6 話 「秀峰、人を育つ」
- 第 7 話 「きらめく星に理想を仰ぐ」
- 第 8 話 「マーキュリー（ヘルメス）の翼に乗って」

（広島大学 福留東土）

通信 63 号の記事訂正のお知らせ

前号において、掲載の誤りがありました。執筆いただいた豊田徳子氏の「交流会発表概要」を掲載せずに、船勢肇会員の「交流会発表概要」を重複して掲載いたしておりました。執筆いただきました豊田徳子氏、船勢肇会員には大変なご迷惑をお掛けいたしました。深くお詫びいたします。

ここに訂正して、豊田徳子氏の「交流会発表概要」を改めて掲載させていただきます。

【交流会発表概要】

近代日本社会に果たした私学の役割 —中等教員養成を通して—

豊田 徳子

研究テーマは、近代日本社会に果たした私学の役割を、中等教員養成に焦点をあてて明らかにすることである。中等教員については、当初から高等師範学校や女子高等師範学校による養成だけでは需要を満たすことは不可能であり、私学がその供給に大きな役割を果たしたことが指摘されてきた。また、私学側が経営面から積極的に中等教育を担う人材育成を教育方針に掲げていたことも知られている。しかしその実態については、個別の大学が所蔵する資料の調査・収集等が必要であるという制約からこれまで明らかにされてこなかった。

無試験検定による中等教員養成の実態を明らかにするため事例とした私学は、東洋大学、國學院大學、東京物理学校、日本大学、早稲田大学の5校である。これら5校を取り上げたのは、中等教員養成における評価が定まっていること、資料面での制約は免れないものの、学校や同窓会の機関誌が継続して発行されていて、長期にわたる連続したデータを得ることが可能なことによる。

5校を考察した結果、それぞれに特色を持ちながら、いずれも大正後期以降の急激な教員の需要拡大に応じて、その供給源として大きな役割を果たしたことが数量的に明らかとなった。また、早稲田大学は、教員養成は官学だけでなく、私学を含めたさまざまな機関が平等な立場でおこなうことに意義があり、それによって中等教育界に活気もたらされると主張していた。

さらに、5校の実態解明の過程で浮かび上がってきたのが、①教職教養の履修問題—指定学校を中心とした教職教養の等閑視、②免許状下付に関わる指定学校と許可学校の格差、③無試験検定制度の「形骸化」—教員の「粗製乱造」「学力の低下」、といった問題である。1937（昭和12）年、内閣直属の諮問機関として設置された教育審議会において中等教員養成制度の根本的な改革についての審議がなされ、1940年にその答申が出された。しかし、これらの答申は、第二次世界大戦のため実現には至らず、戦後の教育改革へ持ち越されていくことになる。

戦前期の日本社会に私学が果たした中等教員養成の役割と問題点を踏まえて、戦後、私立大学において新制の中学校・高等学校の教員養成はどのようにおこなわれたのか。今後の課題として、戦前と戦後の教員養成の連続・非連続を明らかにしていきたい。

会員新刊ニュース

- 1) 杉谷祐美子（編）『大学の学び 教育内容と方法』（リーディングス 日本の高等教育）玉川大学出版部 ISBN 9784472404115, 本体価格 本体 4,500 円＋税
- 2) 阿曾沼明裕（編）『大学と学問 知の共同体の変貌』（リーディングス 日本の高等教育）玉川大学出版部 ISBN 9784472404146, 本体価格 本体 4,500 円＋税

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では会員の研究活動の紹介を心がけておりますが、編集者の情報のみでは限界があります。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）もしくは本紙編集担当の田中までご一報頂ければ幸いです。

原稿募集

『大学史研究通信』第 65 号は 2011 年 1 月 31 日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本紙編集担当の田中までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第 14 号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

私事ですが、7月に島根大学から弘前大学へと転出いたしました。

かなりの距離を移動しましたが、お城には現存天守が威風を誇り、お堀には桜が咲き乱れ、落ち着いた雰囲気之城下町があり、下町には源泉掛け流しの銭湯まであって、不思議なほど、町並みは似通っています。そればかりか、お魚は美味しく、方言もどこか類似点(ズーズー弁)があるなど、距離だけでは測れない親しみを覚えます。

すっかり町に溶け込み、のんびりムードに心地よく浸っておりますが、研究は地道に続けていきますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

(田中 正弘 記)

『大学史研究通信』第64号の編集は事務局・田中正弘が担当いたしました。

連絡先 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
弘前大学 21世紀教育センター高等教育研究開発室
TEL: 0172-39-3920 FAX: 0172-39-3920
E-mail: masatana@cc.hirosaki-u.ac.jp

『大学史研究通信』第65号は、2011年1月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒739 - 8512 広島県東広島市鏡山1-2-2
広島大学 高等教育研究開発センター 福留東土研究室 大学史研究会
TEL&FAX : 082-424-6231
E-mail: fukudome@hiroshima-u.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。
E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員 (五十音順)

浅沼 薫奈	(大東文化大学)	井上 美香子	(九州大学)
岡田 大士	(中央大学)	沖塩 有希子	(青山学院大学非常勤)
田中 正弘	(弘前大学)	福留 東土	(広島大学)